

## (7) 頭頸部癌 TNM 分類に関するイラスト作成および画像診断時における

### 参照資料としての有用性に関する検討

医療福祉マネジメント学研究科医療福祉デザイン学専攻修士課程

東京慈恵会医科大学放射線医学講座

医療福祉マネジメント学研究科医療福祉デザイン学専攻

医療福祉マネジメント学研究科医療福祉デザイン学専攻

○木佐木俊輔

鈴木 隆之

横田ヒロミツ

山形千星子

#### 【目的】

近年、画像診断による術前診断の重要性が広く認識されている。各画像所見は治療開始前や手術不能例に対する臨床分類にも広く使用されているが、解剖学的な複雑さゆえ、初学者にとって腫瘍浸潤の判定に苦慮する場面も多く経験される。そこで初学者を対象に、臨床分類を決定する際に参考資料となりうるイラストを作成し、その有用性に関して検討を行う。

#### 【方法】

上顎洞癌の医療画像を用いて、下記2項目に関する検討を行った。

- ①医学生7名を対象に、上顎洞癌の進展範囲を参照資料を提示しない状態で判定していただき、正答率の評価を行った。
- ②当院で撮像した医療画像を元に、上顎洞癌の T 分類に関するイラスト作成を行った。その後、医学生2名を対象に、作成したイラストを参考資料として提示し、進展範囲の判定をしていただき、画像診断医との一致率に関して、カッパ係数による検討を行った。

#### 【結果】

イラストを参照資料として使用することで、初学者であっても比較的良好な正答率が得られた。参照画像がない状態で正答率の低かった評価項目においても、イラストを用いることで正答率の向上が見られたが、一部の評価項目では正答率の改善が乏しい結果となった。

#### 【考察】

本研究では医療画像から3D データを抽出することで、各主要臓器の3D データを簡便かつ正常解剖に準じた状態で作成することが可能となった。本研究により、参照資料としてのイラストの有用性が示されたが、一部の評価項目に関してはイラストを使用しても正答率が低い結果となった。本研究は初学者を対象としたため、画像診断の基礎知識が十分でなかったことも要因と思われる。

#### 【まとめ】

本研究により、初学者であっても良好な正答率が得られる結果となり、参照資料としてのイラストの有用性が示された。イラストによる視覚情報は解剖構造の理解に寄与し、医療教育やトレーニングにおいて貴重なツールになると考えられる。